

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第6号を下記のとおり発表したので送付します。

令和元年度病虫害発生予報第6号

令和元年9月4日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稲	穂いもち 紋枯病 白葉枯病 穂枯れ もみ枯細菌病 トビイロウンカ	やや遅 — — — — —	並 やや多 並 やや多 やや多 多
ダイズ	べと病 紫斑病 葉焼病 ハスモンヨトウ カメムシ類	— — — — —	並 並 やや多 やや多 やや多
モ モ	モモハモグリガ ハダニ類 ウメシロカイガラムシ	遅 — —	少 並 並
ブドウ	褐斑病 べと病 さび病 ブドウトラカミキリ	— — — —	並 並 やや多 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病 うどんこ病	— — — —	並 やや多 やや多 並
トマト	疫病 斑点細菌病 葉かび病	やや遅 — —	並 並 並
アブラナ 科野菜	アブラムシ類 コナガ ハイマダラノメイガ	— — —	やや少 並 やや多
キ ク	ナミハダニ	やや遅	並

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 穂いもち (晩生種)

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 並

予報の根拠

ア. イネ (晩生種) の生育は平年並～やや遅い傾向にある。

イ. 8月14～19日の巡回調査によると、南部地帯の葉いもちの発生圃場率は18.2%で、平年(45.9%)より低かった。

ウ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合は発病を助長する条件となる。特に、大気的不安定な状態が続くと、にわか雨などによって伝染源となる葉いもちの病勢が進展する可能性がある。

(2) 紋枯病 (晩生種)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月14～19日の巡回調査によると、発生圃場率は48.3%で、平年(34.5%)よりやや高かった。

イ. イネの茎数は、平年並～やや少なく、発病を助長する条件ではない。

ウ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、気温が高く、降水量が多い場合は発病を助長する条件となる。

(3) 白葉枯病 (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月14～19日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

(4) 穂枯れ (ごま葉枯病菌による穂枯れ、晩生種)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月14～19日の巡回調査によると、葉でのごま葉枯病の発生圃場率は24.1%で平年(18.1%)よりやや高かった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、気温が高く、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

(5) もみ枯細菌病 (晩生種)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 前年度の発生量は平年より多かったことから、本年度の種子の保菌率は平年より高いと考えられる。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、気温が高く、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生量 多

予報の根拠

ア. 8月14～19日の巡回調査によると、発生圃場率は30.0%で平年(3.7%)より高かった。

イ. 上記の巡回調査における株当たり虫数は、0.90頭で平年(0.11頭)より高かった。さらに、一部の圃場では増殖率の高い短翅型雌成虫を確認した。

ウ. 赤磐市の予察灯における8月1半旬～5半旬の誘殺数は、7頭で平年(2.3頭)よりやや多かった。

防除上の参考事項

ア. 病害虫発生予察注意報第2号(令和元年8月21日発表)参照。

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発病を助長する条件ではない。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発病を助長する条件ではない。

(3) 葉焼病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、気温が高く降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場のフェロモントラップにおける8月1半旬～5半旬の誘殺数は1,667頭と平年(1,082.9頭)よりやや多かった。

イ. 8月14～19日の巡回調査によると、白化葉の発生圃場率は0.2%で平年(4.5%)よりやや低く、発生程度は軽微であった。

ウ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、気温が高い場合、本虫の増殖を助長する条件となる。

(5) カメムシ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における8月1半旬～5半旬の誘殺数は、アオクサカメムシが15頭で平年(5.1頭)よりやや多く、イチモンジカメムシが15頭で平年(7.9頭)よりやや多かった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、気温が高い場合、本虫の増殖を助長する条件となる。

2. 果樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生時期 遅

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける8月1半旬～5半旬の誘殺数は0頭で平年(7.8頭)より少なかった。

イ. 8月9日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(6.8%)より低かった。

(2) ハダニ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月10日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は35.7%で平年(33.9%)並であった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(3) ウメシロカイガラムシ(第3世代)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24日の巡回調査では第2世代成虫の発生圃場率は8.8%で、平年(1.6%)並であった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

(ブドウ)

(1) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月9日の巡回調査における発生圃場率は27.3%で、平年(39.7%)よりやや低かった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合には発病を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 県内でQoI剤耐性菌の発生が確認されているので、本年度発生の多い圃場では次年度の薬剤の選択に留意する。

(2) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月9日の巡回調査によると、発生圃場率は81.8%で平年(84.1%)並であった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 県内でQoI剤耐性菌の発生が確認されているので、本年度発生の多い圃場では次年度の薬剤の選択に留意する(平成24年度植物防疫情報第2号、平成24年4月6日発表参照)。

(3) さび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月9日の巡回調査によると、発生圃場率は45.5%で平年(7.2%)より高かった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 植物防疫情報第6号(令和元年8月27日発表)参照。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月9日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

3. 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月22日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(55.4%)並であった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発病を助長する条件ではない。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月22日の巡回調査によると、発生圃場率は80.0%で平年(50.3%)より高かった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、気温が高く、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

(3) 炭疽病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月22日の巡回調査によると、発生圃場率は40.0%で平年(21.4%)より高かった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

(4) うどんこ病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月22日の巡回調査によると、発生圃場率は80.0%で平年(74.6%)並であった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発病を助長する条件ではない。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月21、22日の巡回調査では発生を認めず、平年(発生圃場率1.3%)並であった。

イ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発病を助長する条件ではない。

(2) 斑点細菌病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月21、22日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、気温が高く、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月21、22日の巡回調査によると、発生圃場率は12.5%で平年(34.2%)より低かった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 アブラムシ類 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)の黄色水盤における8月1半旬~5半旬の飛来数は49頭で、平年(364.1頭)より少なかった。

イ. 8月23日の巡回調査によると、ダイコンでのアブラムシ類の発生圃場率は25%で平年(4.8%)よりやや高かった。

ウ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(2) コナガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)における8月1半旬~5半旬のフェロモントラップの誘殺数は2頭で、平年(1.8頭)並であった。

イ. 8月23日の巡回調査によると、ダイコンでの発生圃場率は50.0%で平年(29.9%)並であった。

(3) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月23日の巡回調査によると、県南部のチンゲンサイでの発生圃場率は46.2%で、平年(18.6%)よりやや高かった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、気温が高い場合、本虫の増殖を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 幼苗期に加害されると被害株は心止まりになるので、早期発見・早期防除に努める。

イ. 育苗期間中に寒冷紗で被覆を行うと、成虫の侵入・産卵防止に有効である。

ウ. 薬剤感受性の低下が懸念されるので同一系統の薬剤の連用を避け、薬剤以外の防除対策を組み込む。

4. 花 き

(キク)

(1) ナミハダニ

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月23日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で、平年(6.7%)並であった。

イ. 8月29日の季節予報によると、9月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

